

教育・保育理念 ・自分も友だちも大切にすることの育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力を充分に発揮できる力の育成		2024年度重点目標 1. 人とかかわりの中で自分も人も大切に思える気持ちを育む 2. 心身ともに健やかな子どもを育む 3. 自分の居場所があり安心して過ごせる環境を作る 4. 自分らしさが大切にされ、仲間とともにいきいきと過ごす 5. 好奇心、探求心をもって主体的に遊ぶ力を育てる 6. 信頼関係を礎にし、保護者の子育てを支える。	
園の重点項目 様々な人と豊かにかかわる中で自尊感情や人への信頼感、安心の気持ちを育み、“みんなの中の自分”を心地よく感じられるようにする。			

重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価
人とかかわりの中で自分も人も大切に思える気持ちを育む	乳幼児期の応答的な関りを通して情緒の安定や自己肯定感を育み、違いを認め合ったりお互いを尊重する心を育てる。	・園児の表情や行動を温かく見守りながら、思いをうけとめ自尊感情を育てる ・人との関わりを通して、お互いを尊重し合えるよう人権を大切にすることを育てる ・お互いのことを認め合い、共に育ちあうクラスづくりを行う(国籍・ジェンダー・障がい等) ・様々な経験を通して、協調性や思いやりの気持ちを育てる(異年齢交流をふくむ)	A 乳児クラスでは一人一人の気持ちを受けとめ丁寧に応答的な関わりを通して愛着関係の形成と信頼関係を築くことができた。信頼関係が安定に繋がりに周囲に興味をもつことになり友だちとの関わりへと広がっている。 A 幼児クラスではこども同士で思いを伝え合う機会を設けたことで友だちの思いに気づきお互いを認め合える関係をつくることができた・異年交流を行ったことで憧れの気持ちや思いやりの気持ちの芽生えが見られた。 B	A A A A こどもたちの様子や表情からこどもの思いを受けとめ関わられていることが感じられました。
心身ともに健やかな子どもを育む	友達や保育教諭と一緒に体を使った遊びに取り組み、しなやかな体作りをしていく。 意欲的に生活したり遊んだりするための基礎として家庭と連携しながら基本的な生活習慣を身に付け、生活リズムを整える。	・年齢に応じて1年間充分体を使う活動を考え、実践していく。 ・「友だちといると心地いい、楽しい、遊んだら面白い」と感じる関係を築き、遊びが楽しめるようにする。 ・「研修や習字研鑽を通して職員が専門性を向上させ、保育内容の工夫などを交流し合っているが日々の実践に活かす。 ・一人一人の家庭状況を理解し、園児が安心して心地よく過ごせるようにする ・一日の生活リズムや在園時間や個人差を共通理解し、教育・保育内容や方法について配慮した計画を立て工夫する ・保護者と信頼関係を築き、子どもにとっての視点を共有しながら健康的な生活が送れるようにする。	A 1年を通してふれあい遊び、リズム、アートヨガや運動遊びなどを継続的に通る組むことで体を動かすことの楽しさ、心地よさを感じ意欲的に取り組んでいる。 A 集団での取り組みを通して、安全に遊ぶように確認したことで遊びのルールや安全についての意識を持ち友だちと一緒に体を使って遊ぶ楽しさを感じている。 A 職員一人一人が園内研修で学んだことを実践に活かすことができた。公開保育を全年齢で実施したことで教育保育の振り返り次への実践に津々ながっている。 B 園児の発達状況を伝え家庭での様子を保護者と確認しながら基本的な生活習慣が身につくようにした。 B	A A A A A 猛暑等でさまざまな工夫が必要だったと思いますがこどもの健康を考えながら取り組まれていると感じました。 B B
自分の居場所があり安心して過ごせる環境を作る	気持ちを受け止めてもらうことで安心して自分の思いを表現し、自分らしさや主体性を大切にしてもらいながら生活を作っていく。	・保育教諭との温かいふれあいを通して愛着関係を育み、意欲的に生きていく力につなげる ・大人との愛着関係や安心感のもと、自分らしさを発揮し、認められる体験を通して信頼関係を築く ・職員同士が連携して「子どもにとって」の視点で話し合い、教育・保育を進めていく ・支援が必要な園児の指導については集団の中で他の園児との関係を育て、共に成長できるようにする	A 0歳児クラスでは初めての集団生活を安心して過ごせるように担当保育教諭との関係を築くため保育担当制を行った。 A 園児の成長や何や何に大切に關わっていか話し合い共有し安心して過ごさせる場となっている。 A 職員間では日々のミーティングや年齢会議で園児の情報を共有することで同じ思いを持って関われるようにしている。 B	A A A A B こどもが安心して過ごせるようにきめ細かく園全体でこどもを見守り愛情と責任感をもって日々取り組まれていることが伝わってきました。
自分らしさが大切にされ、仲間とともにいきいきと過ごす	ありのままの自分でよいという安心感をもって様々な人と関わり、喜怒哀楽の感情を共有しながら仲間の大切さや気持ちの整え方を知る。	・こどもの発達過程に応じ、個人差に配慮しながら発達を保障する ・「友だちといると心地よい、楽しい、遊んだら面白い」と感じる関係を築いていく ・折り合いをつける体験をしたり、きまりの必要性に気付けるような生活や集団あそびをする ・子どもが主体となり興味を持って取り組んだり、友だちや保育教諭と話し合う中で、考えを広げたり深めたりしながら、深い学びにつながる実践を展開する	A ふれあい遊びや集団あそびなどを経験することで乳児では友だちへ関心を広がり真似てみようとする姿が見られ、大人の仲立ちのもと「ちょうだい」「どうぞ」と思い伝える経験をしている。幼児では自分の思いや感情をどのように表現してよいかわからない姿も見られるが保育教諭が受けとめ気持ちを整理することで言葉での表現へとつなげている。 B 様々な取り組みを通して自分の気持ち友だちの気持ちに気づき遊びにはルールがあることを知りこども主体の遊びが展開されている。 B	A A A A A 年齢に応じたひとりひとりを大切に關わられていることがよくわかりました。 A 幼児の取り組みでは友だちと協力する姿がみられました。
好奇心、探求心をもって主体的に遊ぶ力を育てる	ドキドキワクワクするような様々な活動を通して達成感や充実感、持続力や集中力を養い、主体的に夢中になって遊ぶようにしていく。	・園児の興味・関心に基づき、遊びこめる環境を整える ・自然とのふれあいや実体験を大切にし、生活や遊びの中での学びを保障する ・あそびの中で思考力や集中力を養い、成功体験や失敗体験からあきらめないで取り組む力を育てる ・園児の意欲や探求心などを引き出すような保育教諭の関わりを大切に	A 季節が感じられる菜園活動や毎月の食育集会で食材紹介、教材を用いた食育に関する取り組みから食への興味や食べる意欲を育んだ。 A 「失敗してもやりなせば大丈夫」という環境のもと、安心感を持って活動をする中で次の方法や根気よく取り組む姿が見られた。 B A	A A A A A こどもたちの姿をとらえながら菜園活動や小動物の飼育など工夫されています。幼児の年間を通したテーマでの取り組みが印象的でした。
信頼関係を礎にし、保護者の子育てを支える	保護者の思いを尊重し寄り添う姿勢を大切にしながら、専門性を発揮した関りや援助によって保護者のよりよい自己決定や親子がよい状態で向き合える関係づくりを支える。 園庭開放や育児講座、一時保育の利用などで地域の保護者と積極的にいかかわりながら子育てに関する相談窓口、情報発信、保護者同士のつながりづくりなど、地域の子育て支援の拠点としての役割を果たす。	・家庭環境やニーズを受け止め、保護者の気持ちに寄り添い、共感する ・保護者自らが子育てが楽しいと思え、向き合えるように、出来ることを一緒にみつめる ・送迎時や懇談、行事、配布物など様々な機会を活用し、保護者に教育・保育内容や子どもの姿を工夫して伝え子どもの成長を共有する ・地域の中の公立こども園の役割を認識し、関係機関や団体等と連携、協力を図り、適切な子育て支援を行う ・地域の人材の活用や、情報提供を積極的に行い、地域と共に子育てを進める ・一時保育を利用しやすい環境を整え、保護者の育児や子どもの発達を支援する	B 個人懇談会や送迎時のやり取りを通して、保護者が自己決定し子育てに前向きになれるように助言、支援することができた。 B 教育保育の様子をキッズビューで配信などでわかりやすく伝えるために職員間で学びの機会をもった。 A A A 園庭開放、育児講座の実施、サークル支援への参加を通して地域の子育て支援をすることができた。地域での活動に参加することで地域の方が気軽にこども園に来てもらうことができています。5歳児は区民まつりやいきいきサロン　4歳児は美原西のつどいに参加し貴重な経験になりました。一時保育においては登録時に丁寧に面談を行い保護者、こどもにとって安心な場となるようにしている。 A	B B A A A 多様なニーズがあると思いますが丁寧に対応されていると思います。 A A A こども園が地域の子育て支援に来てくれることで保護者にとっても利用しやすくなっていると思う。いきいきサロンでは地域の方が楽しみにしているのものでこれからも交流してほしいです。

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
主体的に関わる教育保育の実践	こどもの興味や関心に合わせ主体的に遊べる環境を整える 公開保育の実施
小学校との連携	こどもや保護者がイメージが持てるようにしていく。 職員間で交流を行いこどもの育ちを共有する。(保幼小の研修　評価委員会　参観など)

園長より
こどもたちが興味・関心をもつきっかけづくりとして環境づくりに積極的に取り組みました。(クローバーのこみち、虫がくる花壇、小動物を身近にみれる場所など)　こども自身の気づきを職員が受けとめ各年齢にて教育保育に活かすことで、不思議さや楽しさから「またやってみたい」「友だちと過ごすことの心地よさ」を感じることに繋がったと思います。来年度も「夢中になって遊ぶことができる環境づくり」に取り組んでいきたいと思ひます。 日々の教育保育をキッズビューを通して保護者の方々にわかりやすく発信できるようにしていきたいと思ひます。